

令和 6 年度学校関係者評価

慈恵歯科医療ファッション専門学校

令和 6 年度学校関係者評価委員

○関連業界関係者

浅井 章夫 様 浅井歯科医院 院長、愛知県歯科医師会副会長

樋口 泰弘 様 水野株式会社常務

塚元 雅則 様 愛知県立宝陵高等学校 福祉科 教諭

○卒業生

横山 美佐江 様 ファッション学科卒業生

○近隣住民代表

宮治 友也 様 安城市地域代表

<学校の概要、目標及び計画>

学 校 名 慈恵歯科医療ファッション専門学校

校長名 大石 純男

所 在 地 〒446-0037 安城市相生町 2 0 4

電話番号 TEL 0566-76-5288 FAX 0566-76-5212

<https://sakura-g.ac.jp>

沿 革

- | | |
|--------------|-----------------------------------|
| 1947(昭和 22)年 | 開院「古井さくら和裁学院」安城市古井町桜塚 |
| 1957(昭和 32)年 | 各種学校「安城さくら家政学院」認可 洋裁科設置 |
| 1962(昭和 37)年 | さくら学園法人格取得 |
| 1972(昭和 46)年 | 「安城女子専門職業学校」設置認可 |
| 1975(昭和 50)年 | 「安城女子専門職業学校」を「安城女子専門学校」に校名変更 |
| 1987(昭和 62)年 | 学校法人文化学園「文化服装学院」連鎖校として認可 |
| 1996(平成 8)年 | 「専門学校慈恵きものファッションカレッジ」に校名変更 |
| 1998(平成 10)年 | 「ファッションベーシック科」「ファッションテクニカル科」に科名変更 |
| 2013(平成 25)年 | 「慈恵医療福祉ファッション専門学校」に校名変更 |

「医療事務学科」新設

2014(平成 26)年 さくらホール完成

2014(平成 26)年 「慈恵歯科医療ファッション専門学校」に校名変更

「歯科衛生士学科」新設

学校の特徴

- ・建学の精神「誠心」「感謝」のもと、情操的な宗教教育を背景に、思いやりのある奉仕の心を持ち、自主性・社会性・無償性・創造性が豊かで、慈しみの心で、広く社会に奉仕・貢献できる人材を育成している。ファッション学科と医療事務学科と歯科衛生士学科の三学科で成り立っている。

教育目標

- ・心豊かで自立心に富み、社会貢献ができる人材を育成する。
- ・徹底した実技指導をして技術を習得させ、質の高い職業教育ができるよう、学校運営を改善していく。

学校の教育目標

本校は、「心豊かで自律心に富み、社会に貢献できる人材を育成する」という教育方針に基づいて教育を行っている。具体的な教育目標として次の2項目を掲げている。

- (1) 人として生きていくための人格形成の場として、本校の独自科目である「ボランティア」の実践を通してコミュニケーション能力を培い、自らを律し向上心をもって明るく正しく生きる道を学ぶための教育支援をする。
- (2) 本校の3つの専門学科(ファッション学科、医療事務学科、歯科衛生士学科)における専門的な技術が、生涯を生きる支えや心の糧となるように、それぞれの学生の実態に応じた学習支援をする。

教育指導方針

本学園 70 年以上の歴史と伝統を守りながら、時代の流れや社会のニーズに対応した改革心を持ち、社会に貢献できる人材の育成に努める。特に、校訓「^{まごころ}誠心」「感謝」に込められた人を愛する心・思いやりの心を根底において教育支援をする。

評 価 項 目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
・学校の理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	4	3	2	1

・学校における職業教育その他の教育指導等の特色が周知されているか	4	3	2	1
・社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想が策定されているか	4	3	2	1
・理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者・非常勤講師等に周知されているか	4	3	2	1
・各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4	3	2	1

①現状の課題

- ・教職員全員が共通理解の下に実践していく環境づくりの推進を図る。

②今後の改善方策

- ・本校が目指す教育方針を、学生及び保護者の意識や価値観を尊重しながらできるだけ丁寧に周知していく必要がある。

③学校関係者評価

- ・人格形成の場として、学生の自覚と責任を持たせるような機会をつくり、心豊かなコミュニケーションができる社会人を育成する必要がある。人間的に信頼できる人材が求められている。
- ・医療系の検定での資格取得、歯科衛生士国家試験全員合格などは評価できる。

<各学科等の教育>

学科と学生数（令和6年5月1日現在）

	各学年定員数	1年	2年	3年	合計
ファッションベーシック学科	20	14	3		17
ファッションテクニカル学科	10	3	0		3
医療事務学科	40	11	11		22
歯科衛生士学科	35	31	36	32	99
合 計	105	59	50	32	141

- ・カリキュラムは学則の教育課程編成表による。
- ・進級・卒業の要件は学則による。

- ・ 目指す資格は、歯科衛生士国家試験合格並びに介護福祉士実務者研修の資格取得。
(過去 9 年間歯科衛生士国家試験全員合格)
- ・ 卒業生数は、1 回生 (21 名) 2 回生 (26 名) 3 回生 (25 名) 4 回生 (17 名)
5 回生 (21 名) 6 回生 (25 名) 7 回生 (29 名) 8 回生 (34 名)
9 回生 (31 名) の 229 名である。
- ・ 卒業後の進路は、多くの学生が歯科診療所勤務で、一部の学生が病院の歯科口腔外科勤務である。

評 価 項 目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
・ 募集定員に見合った応募人数があり、入学者数が定員を満たしているか	4	3	2	1
・ カリキュラムの見直しが行われ、学んだことが就職活動に生かされているか	4	3	2	1
・ 進級・卒業の要件が見直され、退学率などの減少につながっているか	4	3	2	1
・ 目指している検定や資格取得の実績があり、卒業後の進路・就職に生かされているか。	4	3	2	1
・ 資格取得の実績は維持・改善されているか	4	3	2	1

①現状の課題

- ・ 各学科で反省点を生かして、改善策を考え実行していくことにより各学科の成長が見えるように取り組む。

②今後の改善方策

- ・ 授業改善を図り、資格取得の実績を更に伸ばす努力を続ける。
- ・ 就職実績を伸ばし、本校志願者数を増やすように、広報活動に力を入れる。

③学校関係者評価

- ・ 医療系の資格取得状況には、目覚ましいものがあり、今後も継続できるよう取り組んでほしい。
- ・ 歯科衛生士の業務が拡大し、高齢者歯科、口腔ケアが重要視されており対策が必要であるが、本校では介護職員実務者研修の資格取得で対応できている。
- ・ 苦労をして技術を身に付けていくことの大切さを伝えてほしい。

<教職員>

教職員数

理 事 長 岩瀬せつ子

校 長 大石 純男

顧 問 中村 洋

教 員 9 名

非常勤講師 7 3 名

事務職員 2 名

合 計 8 4 名

・教職員の組織・活動については、資料④の学校運営組織に基づき、分掌ごとに活動している。

評 価 項 目	適切... 4、ほぼ適切... 3、 やや不適切... 2、不適切... 1			
・教職員の勤務時間は、法令遵守されており、教育理念をも って教育活動に取り組んでいるか	4	3	2	1
・授業評価の実施・評価体制はあるか	4	3	2	1
・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための 研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行わ れているか	4	3	2	1
・職員の能力開発のための研修等が行われているか	4	3	2	1

①現状の課題

・職員の能力開発のための研修機会・研修時間の確保が必要である。

②今後の改善方策

- ・教職員自らの専門分野等の知識・技術向上を図る必要がある。
- ・教職員がアクティブラーニングの研修ができる環境を作る必要がある。

③学校関係者評価

- ・幅広く資格取得に取り組み、情報処理の変化に対応できる人材育成に取り組んでほしい。
- ・スマホの活用、タブレットの使用、パソコンの授業の充実、環境の整備が必要となっている。オンライン授業の効果についても検証が必要である。

<キャリア教育・実践的職業教育>

- ・キャリア教育としては、地域でのフッ素塗布ボランティアへの参加や企業検診への参加などを行い、知識・技術・態度の向上を図っている。
- ・就職支援の取組としては、臨地臨床実習での実習体験を通じて、自己の適性を知り就職先を決定している。
- ・求人票を地域別に整理・開示し、閲覧する中で就職先を決めている。

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、やや不適切… 2、不適切… 1			
・学科等のカリキュラムは体系的に編成されて、シラバスに従って授業展開できているか	4	3	2	1
・関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4	3	2	1
・関連分野における実践的な職業教育（産学連携による職業体験・インターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4	3	2	1

①現状の課題

- ・臨床実習・病院実習・企業実習を行う中で職業観や社会人としての自覚を身に付けるよう指導する。

②今後の改善方策

- ・積極的に実習に参加し、自ら考え行動できる力が身につくよう取り組む。

③学校関係者評価

- ・実習報告会で実習等の反省点を見直し、プレゼンテーションする中で成長していくことを期待したい。
- ・高齢者のオーラルフレイルへの対応、若年者の口腔ケアが大切になっている。

<様々な教育活動・教育環境>

- ・学校行事としては、入学式、球技大会、戴帽式、ハロウィンパーティ、クリスマス会、表彰式、同窓会入会式、卒業式等を行っている。
- ・放課後の活動としては、行事委員会、アルバム委員会、自主的な学習会等が行われている。
- ・家庭・地域・企業等との連携としては、戴帽式・企業訪問・臨地臨床実習等を行っている。
- ・他の学校との連携では、碧海看護専門学校の学生と多職種連携を図っている。

評 価 項 目	適切... 4、ほぼ適切... 3、 やや不適切... 2、不適切... 1			
・進学率や就職率の向上が図られているか	4	3	2	1
・資格取得率の向上が図られているか	4	3	2	1
・退学率の低減が図られているか	4	3	2	1
・卒業生、在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4	3	2	1
・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか。	4	3	2	1

①現状の課題

- ・より多くの求人数を確保するため、就職指導（企業斡旋）に取り組む必要がある。
- ・卒業生の社会的な活躍及び評価を把握した上での、卒業後のフォローアップ体制を構築する必要がある。

②今後の改善方策

- ・退学者の理由は、学習意欲の欠如、経済的な理由、家庭の事情、不登校など多様である。学生を多面的に理解し、些細な変化も見逃さず、家庭との連絡を一層密にしながら担任と学校全体とで組織的対応をしていく必要がある。

③学校関係者評価

- ・検定試験等を受検し、資格取得に取り組んでいることは評価できる。歯科衛生士国家試験においては9年連続で100%合格をしていることも評価できる。
- ・卒業後、結婚・出産後の再就職・復職の必要性が高まっているので、歯科医師会・歯科衛生士会からの説明会を校内で実施していくことが必要である。卒業生には、同窓会を通じて案内文を郵送している。

<学生納付金・修学支援>

- ・学生納付金の取り扱いについては学則に基づいている。
- ・活用できる経済的な修学支援措置については、学生支援機構の奨学金（給付型・貸与型）、教育訓練給付制度、歯科医院奨学金制度などがある。また、学校独自の奨学金制度もある。

評 価 項 目	適切... 4、ほぼ適切... 3、 やや不適切... 2、不適切... 1			
・学生の経済的側面に対する支援体制を整備し、適切に運用しているか	4	3	2	1
・学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4	3	2	1

・学生の生活環境への支援は行われているか	4	3	2	1
・保護者と適切に連携しているか	4	3	2	1
・卒業生への支援体制を整備し、適切に運用しているか	4	3	2	1

①現状の課題

- ・経済的に修学が困難になった場合、可能な限りの支援策について教員全員が情報共有する必要がある。

②今後の改善方策

- ・本年度は、多子世帯や一人親家庭などの修学支援が必要な学生には給付型奨学金制度を案内し、申請を支援していく。

③学校関係者評価

- ・留学生の地域におけるアルバイト状況を把握し、支援していくことが大切である。接客対応もよくなるよう指導する必要がある。
- ・感染防止対策として診療対処法の改善などが診療現場で行われているので、学生自身も毎日の検温記録を徹底して行い、換気・感染予防・滅菌等、厳格に実施していくことが必要である。

<教育環境>

- ・学生への生活指導への取り組み状況については、できる限りその場面での指導を大切にしている。
- ・心のケアの体制整備等に関する状況は、早期把握と早期対応を旨とし、個別面談を行い、対応している。専門的な対処が必要な場合は、カウンセラーや専門的医師の指示を仰いでいる。

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4	3	2	1
・学内外の実習施設、インターンシップについて十分な教育体制を整備しているか	4	3	2	1
・防災に対する体制は整備されているか	4	3	2	1

①現状の課題

- ・インターンシップ等において受け入れ側の事情を考慮した上で学生の安全面などを検討する必要がある。
- ・大規模災害への対策を検討必要がある。

②今後の改善方策

- ・地震等災害時の食料品備蓄だけではなく、トイレの確保についても検討が必要である。
- ・消防署と連携した災害訓練を計画し実行する必要がある。

③学校関係者評価

- ・感染症予防対策として自宅待機等を考えると、インターネット環境を視野に入れた教育環境を整える必要がある。使用器具の消毒や滅菌を徹底し、感染防止を図る必要がある。
- ・SDGsで洋服のリメイクや使いまわしなどで、洋服の販売が不振でファッション業界は厳しい状況である。

<学生の受入れ募集>

評 価 項 目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
・ 学生募集活動は、適正に行われているか	4	3	2	1
・ 学生募集活動において教育成果は募集要項等で正確に周知しているか	4	3	2	1
・ 学納金は妥当なものとなっているか	4	3	2	1

① 現状の課題

- ・学生数減少傾向への対応策を早急に検討し、広報活動を推進する。

② 今後の改善方策

- ・ファッション学科と歯科衛生士学科での男子学生・留学生の受け入れを開始する。
- ・本校独自の魅力をPRしていくことが大切である。

③ 学校関係者評価

- ・体験入学の充実、AO入試の広報活動などで、入学志願者の増加を図る必要がある。
- ・新入生の人員確保ができるよう、協力していきたい。

< 学校の財務 >

- ・財務諸表については、ホームページ (<https://sakura-g.ac.jp>) 参照。

評 価 項 目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
---------	-----------------------------------	--	--	--

・ 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4	3	2	1
・ 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4	3	2	1
・ 財務について会計監査が適正に行われているか	4	3	2	1
・ 財務情報公開の体制整備はできているか	4	3	2	1

①現状の課題

- ・ 女子学生だけでなく、男子学生の更なる受け入れを検討していく。

②今後の改善方策

- ・ 備品、消耗品の更新・廃棄を行うよう努める。

③学校関係者評価

- ・ 財務情報の報告はホームページで公開されており、適切に処理されている。

<コンプライアンス等>

- ・ 自己評価・学校関係者評価の結果については、議事録にまとめ、次年度の改善に生かしている。
- ・ 評価結果を踏まえた改善方策については、各担当者で検討し、改善できるところは直している。

評価項目	適切... 4、ほぼ適切... 3、 やや不適切... 2、不適切... 1			
・ 法令、専門学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4	3	2	1
・ 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4	3	2	1
・ 自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	4	3	2	1
・ 自己評価、学校関係者評価を実施し、結果を公開しているか	4	3	2	1

①現状の課題

- ・ 学校評価に基づく改善の取組みと教育情報公開に取り組んでいく。

②今後の改善方策

- ・ 学校評価の結果と対策・対応について教職員で情報共有し、自己評価によって明らかとなった改善を必要とする事項に、できることから取り組む。

③学校関係者評価

- ・ 個人情報は、会社・医院・学校等でも厳密に保持・保管することが必要である。

<社会貢献・地域貢献>

評 価 項 目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
・ 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4	3	2	1
・ 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	4	3	2	1

① 現状の課題

- ・ 教育資源を活かした地域貢献の推進をする必要がある。

② 今後の改善方策

- ・ 本校教育資源に対する地域社会の要望を集約する機会を生み出していく必要がある。

③ 学校関係者評価

- ・ 地域が企画運営する行事等に、学生ボランティアが積極的に関わり貢献するのはよい。
- ・ ファッション学科の留学生が地域で働く姿が見られ、頼もしい。

V 総合的な評価結果

各取り組み状況については「適切」「ほぼ適切」と評価できる。

さくら学園の教育活動の根幹である校訓「誠心」「感謝」を全職員・全学生で大切にし、一人一人の学生に寄り添った、きめ細かで丁寧な指導により、心豊かで自律心に富み、社会に貢献できる人材に成長して卒業している。関係企業・病院・クリニックからも「即戦力となり、必要な存在」と称賛されている。今後も「一人一人としっかり向き合い」学生に合ったきめ細やかな教育に取り組んでいく必要がある。

全教職員で、全ての学生に誠実に対応し、学生自身が自ら考え行動できるよう教育環境を整え、評価結果を真摯に受け止め、時代のニーズに応える職業教育の充実を継続していかねばならない。